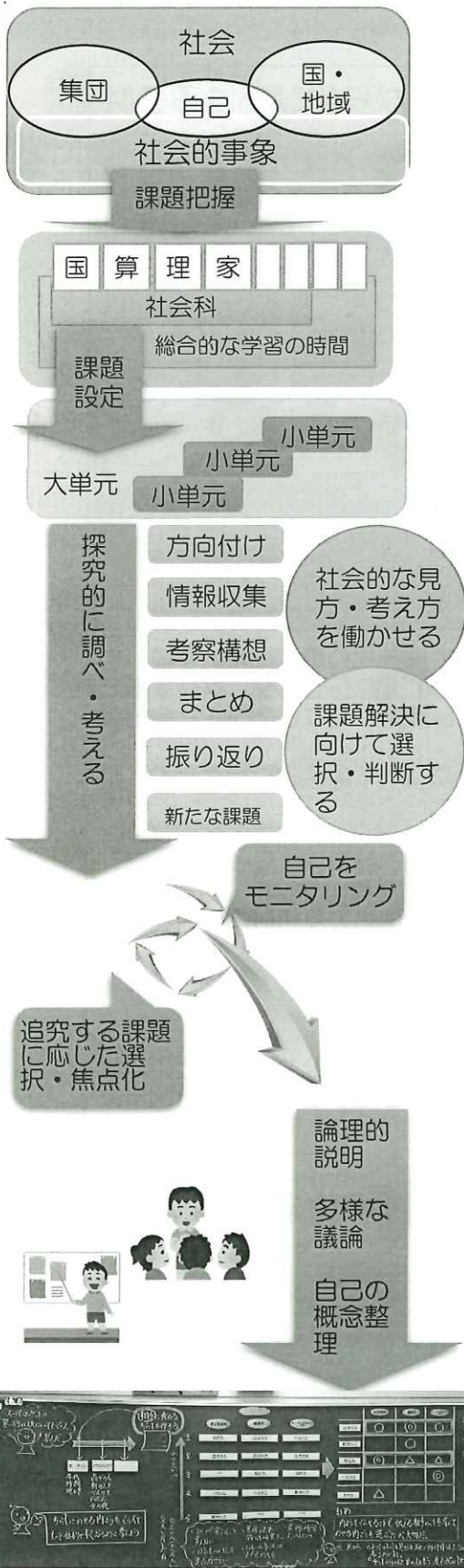




課題設定	<p>社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会にみられる課題を把握したりすることで、自ら、社会の一員として解決可能な学習課題を設定しようとする。</p> <p>(1) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会にみられる課題を把握したりする。</p> <p>① 日常生活の中での出来事や授業の中で提供される資料を分析的に読み取り、社会的事象の見方・考え方を働かせることで、子供自らが置かれている問題状況を理解しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、比較・分類したり総合したり、地域の人々や日常生活と関連付けたりする。 <p>(2) 自ら、社会の一員として解決可能な学習課題を設定しようとする。</p> <p>① 持続可能な社会などよりよい社会を目指す観点でのパフォーマンス課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 「今のままでこの先も大丈夫なのか」「解決すべき課題は何か」などの新たな問いが導き出される中で、主体的に学習課題が設定できるようにする。 <p>② 大単元を通して小単元ごとに更新されるパフォーマンス課題の設定</p>
課題追究	<p>課題を追究する際に、社会的事象の見方・考え方をを用いて、社会的事象について探究的に調べ、考えることができるようにする。そして、追究中に、自己の追究過程をモニタリングして、課題に応じた追究方法を選択したり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を追究する際に、社会的事象の見方・考え方をを用いて、社会的事象について探究的に調べ、考えるようにする。</p> <p>① 社会的事象の見方・考え方をを用いる</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の見方…位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目すること。 社会的事象の考え方…比較・分類したり総合したり、地域の人々や日常生活と関連付けたりすること。 探究的に調べ、考えるためには、学習課題の設定の際に良質な問いを持つ必要がある。良質な問いは、学習対象となる社会的事象が扱われている資料等を社会的な見方・考え方をを用いて分析することで生まれてくる。 <p>(2) 追究中に、自己の追究過程をモニタリングして、学習課題に応じた追究方法を選択したり、焦点化したりする。</p> <p>① 学習課題に応じた追究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人追究…自己と社会的事象とのかかわりにおいて、学習課題を考えるとき。 集団追究…社会と自己のかかわりにおいて、学習課題を考えるとき。
パフォーマンス	<p>追究したことを基に、学習課題について多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりすることで、学習課題に対する自己の概念を整理する。</p> <p>(1) 考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする。</p> <p>① 他教科・領域で身に付けた表現方法を選択して表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語で身に付けた説明文を書くときに用いたスキル 算数で身に付けた図や表を用いて説明するスキル <p>② 他教科・領域で身に付けた話し合い方法を選択して議論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現内容に応じた媒体の選択(ミニホワイトボード、ホワイトボード、iPad等) ウォール・ライティング、バス、ディスカッション、ロールプレイング等 <p>(2) 学習課題に対する自己の概念を整理する。</p> <p>① 子供一人一人が、自分の言葉で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主張文、新聞、白地図、年表 等

～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



目指す姿を実現する支援例

【具体的で現実的な資料を分析できるように支援する】

- 社会にみられる課題を把握するためには、自分たちの生活とかかわりがあり、具体的かつ社会的見方において、現実的な資料を用意することが重要である。
- 資料を多面的に見たり、複数の資料を比較させたりすることで、資料に内在化されている問題点に気づき、問いを生むことができる。

【子供が問いを見出し、その解決の見通しをもてるよう支援する】

- 社会科においては、子供達の既存の概念を土台に、単元のゴールを見通す。持続可能な社会の実現のためには、見出した問いをどのように解決していけばいいのか、そのためには、何をすればよいかを子供達が検討する中で学習課題を設定するよう促す。

【子供が多様な方法から学習課題を探究的に追究できるように支援する】

- 学習課題の内容や質によって、見学したり白地図や表などに整理したり、専門家へインタビューしたりすることを、子供と教師が検討を重ね判断する。その際に、他教科での学習経験を十分生かすようにする。学習課題の解決が難しく、多岐に渡る総合的な内容になることが多いので、探究的に学習活動が展開されるようにする。

【学習課題の追究過程を子供がメタ認知し、その後の追究過程を調整することができるよう支援する】

- 課題追究中に、自己をモニタリングできるように、自分の考えを文字に書き表すことを積み重ねる。その際、自分の考えを整理するために、ペアやグループ等対話の手法を活用できるよう、必要に応じて教師が促す。
- 教師も子供も「学びの文脈」を意識し、今までの学びとの連続性を常に確認しつつ、これからの学びを子供自ら設定できるようにする。

【課題追究の結果、整理された自己の考えを表現できるように支援する】

- 多様な課題追究の結果から身に付けるべき概念を見出すことが必要であることを理解させ、その上で他者と伝え合うために、どのような方法を選択するのがよいか、吟味するよう促す。
- 各教科・領域ですでに獲得している説明・議論のスキルを教師が適宜支援をする形で活用する。
- 効果的な表現方法について、表現する内容や自分たちの学びの実態、表現する相手のことを想定して、自分たちで選択できるよう、方法を比較検討する機会を設ける。

【子供が学習を構造化し、概念化できるように支援する】

- 課題追究の過程で手に入れた課題解決に対する自分なりの考えや根拠を、主張文、新聞、白地図、年表等を活用しながら表現できるよう、構造デザインの仕方を支援する。
- 他者を見ることは、自分を見つけることにつながる。他者の考えを理解し、そのよさを見つけるよう促す。